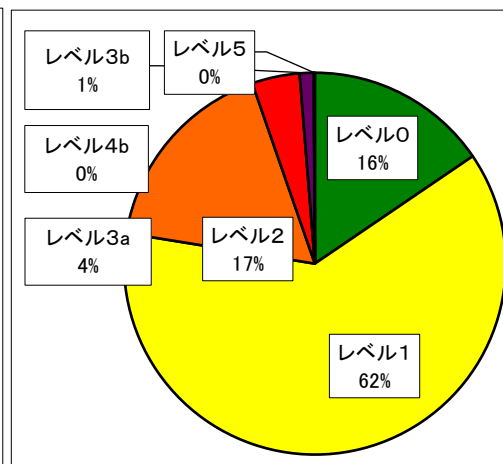
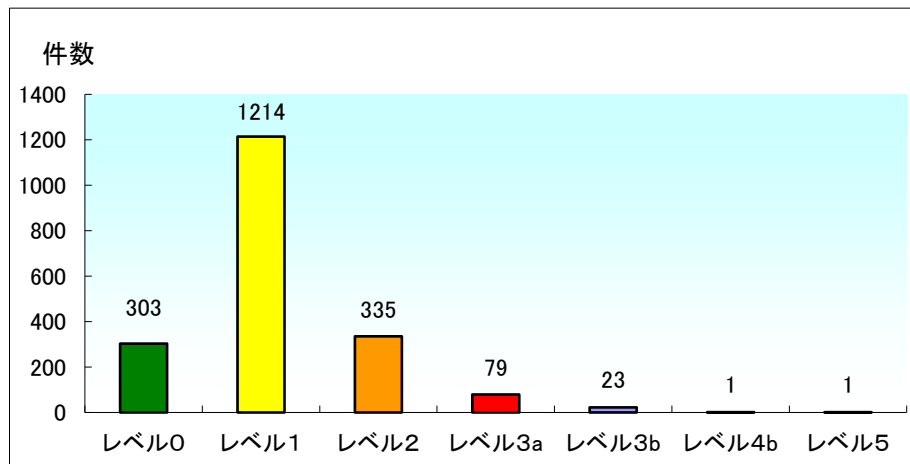


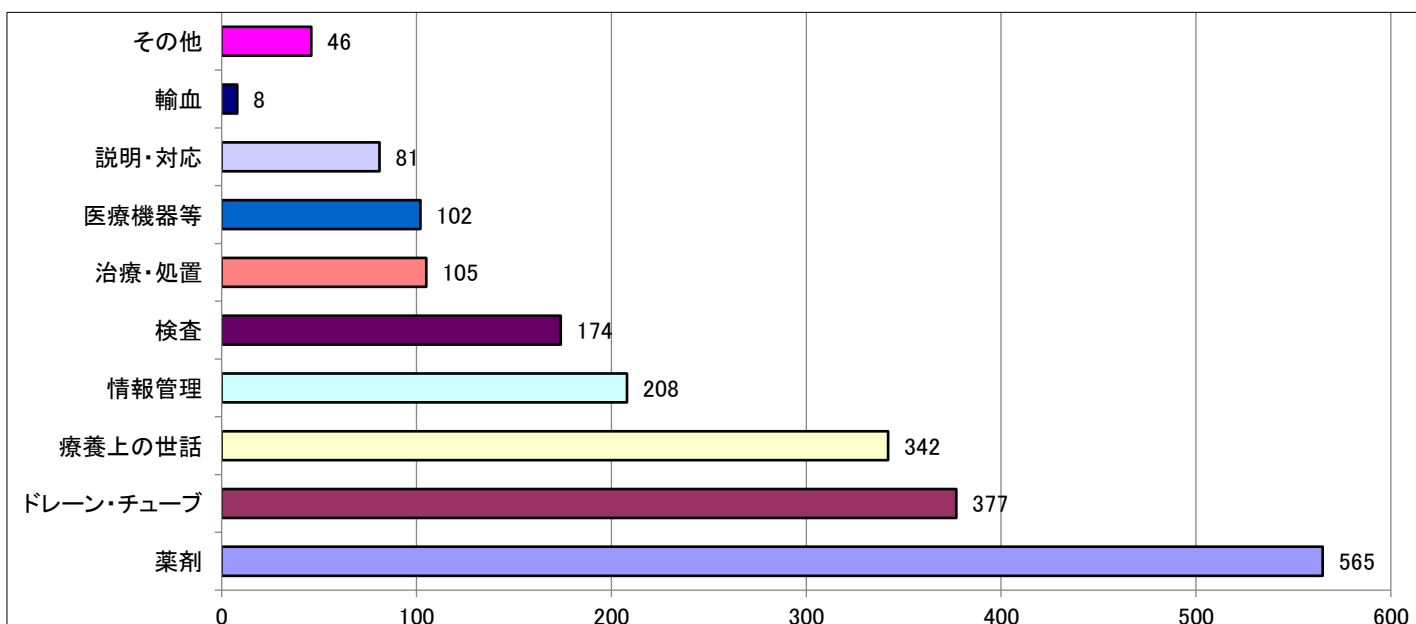
2023 年度 年度集計報告（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

1. 報告総数：2008 件

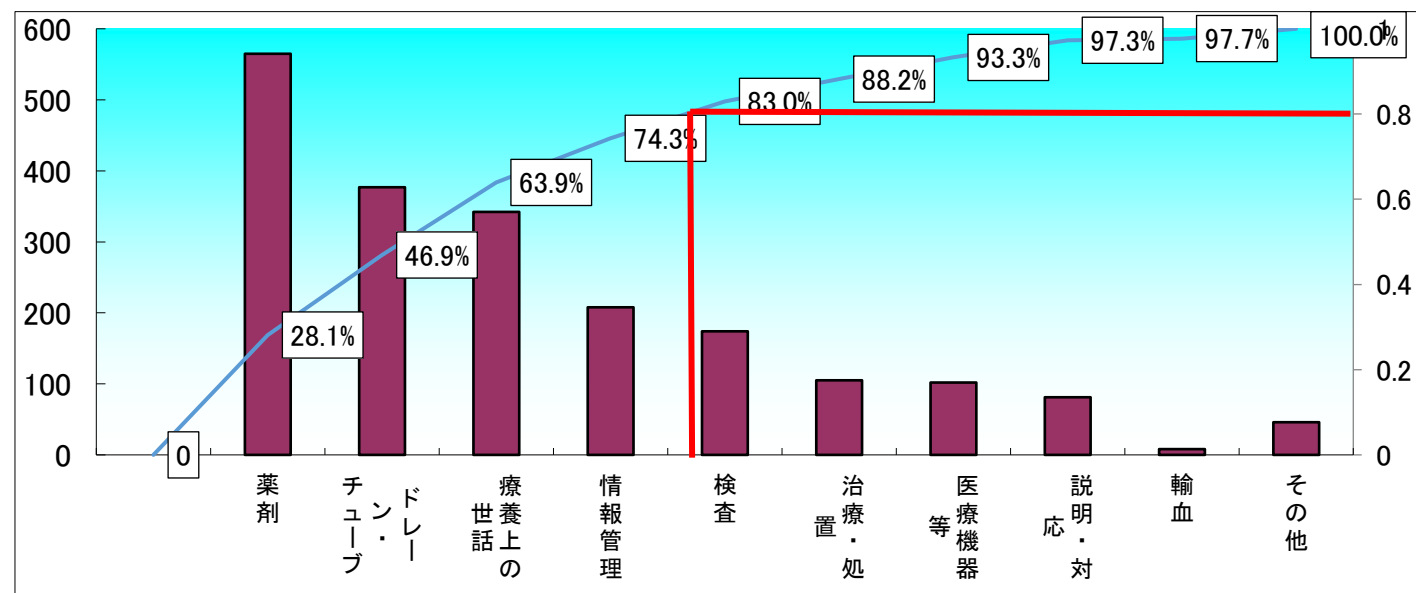
事故レベル別報告割合



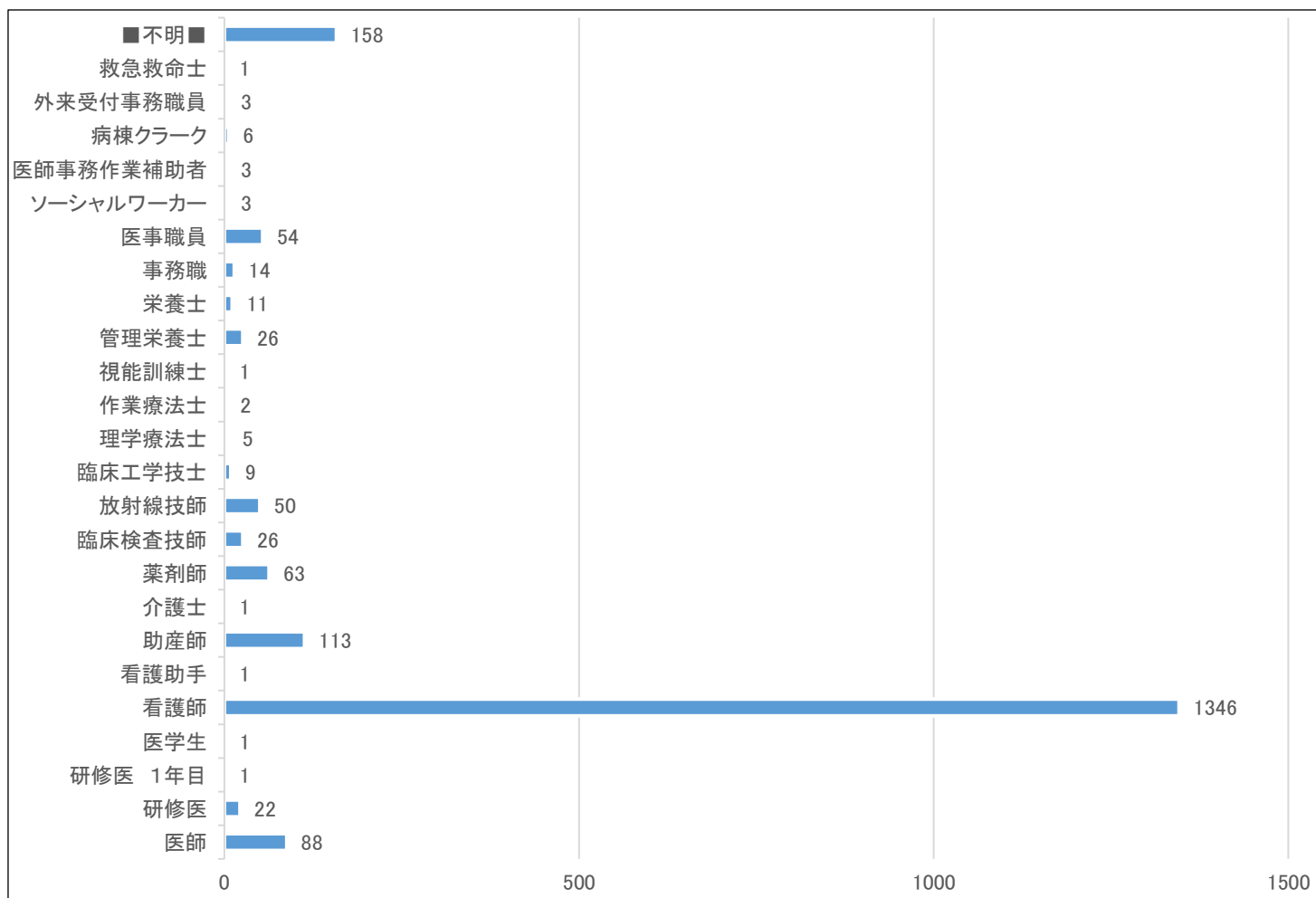
2. 報告内容別件数



2-1 2022 年度 報告内容（パレート図）

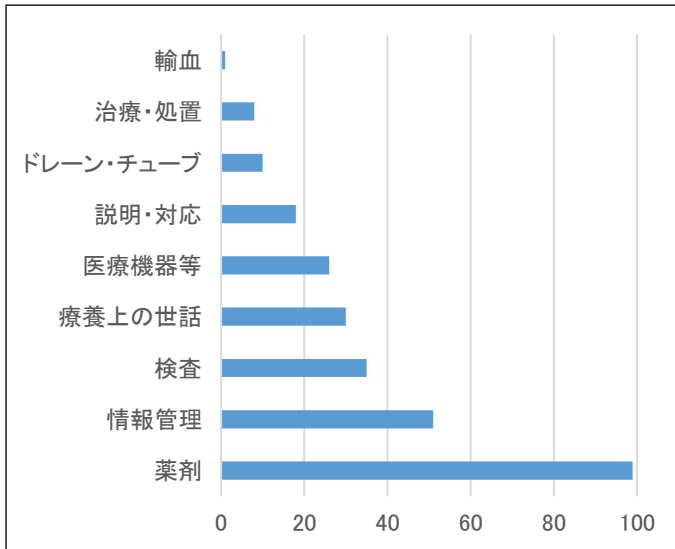


3. 報告者別件数

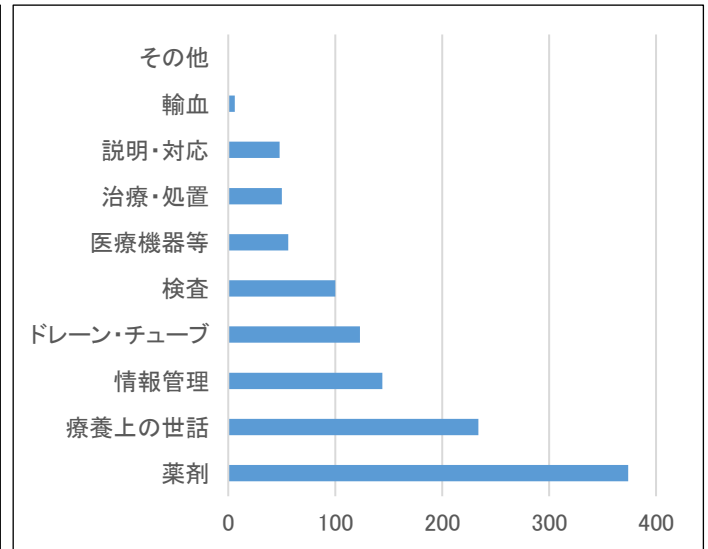


4. 事故レベル別件数

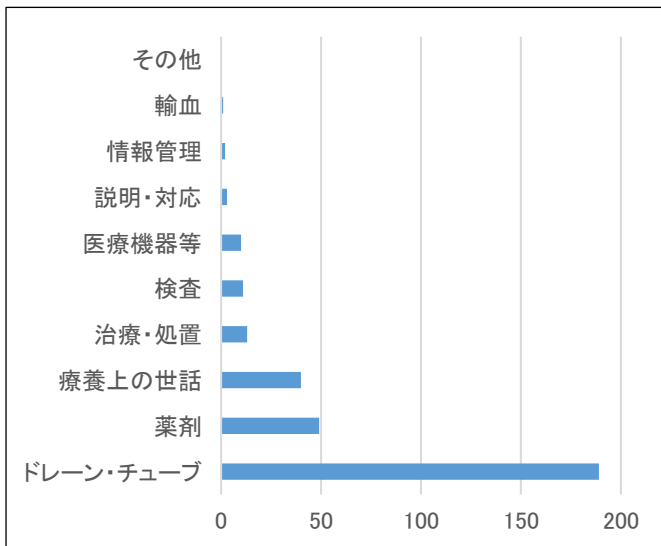
(1) 「事故レベル0」報告内容 303 件



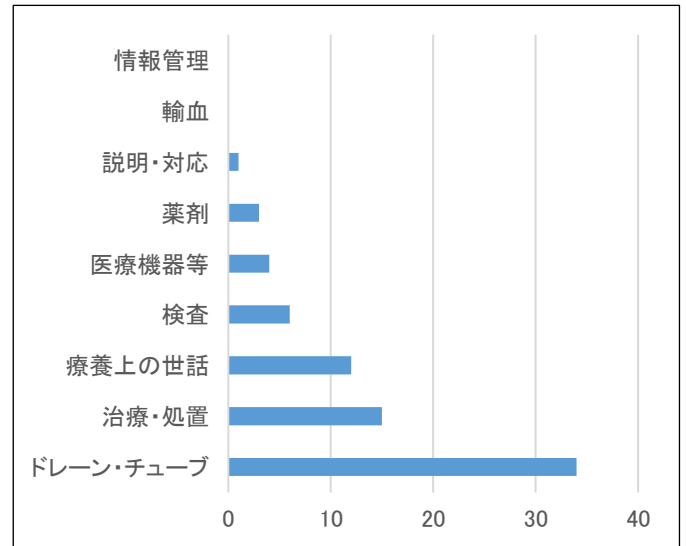
(2) 「事故レベル1」報告内容 1214 件



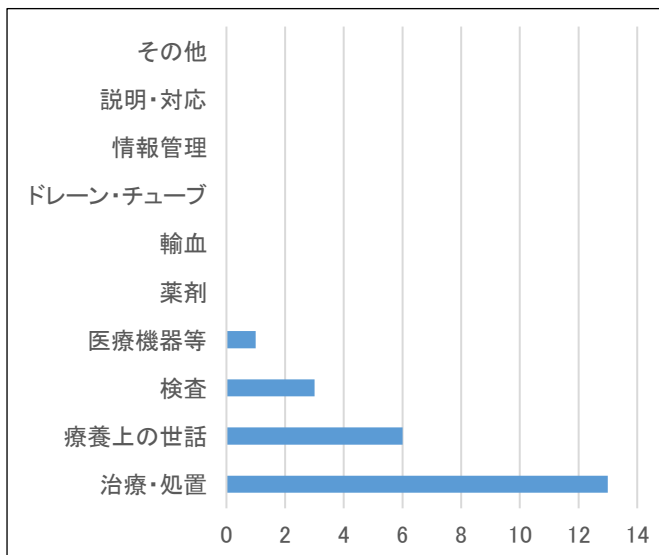
(3) 「事故レベル2」報告内容割合 335 件



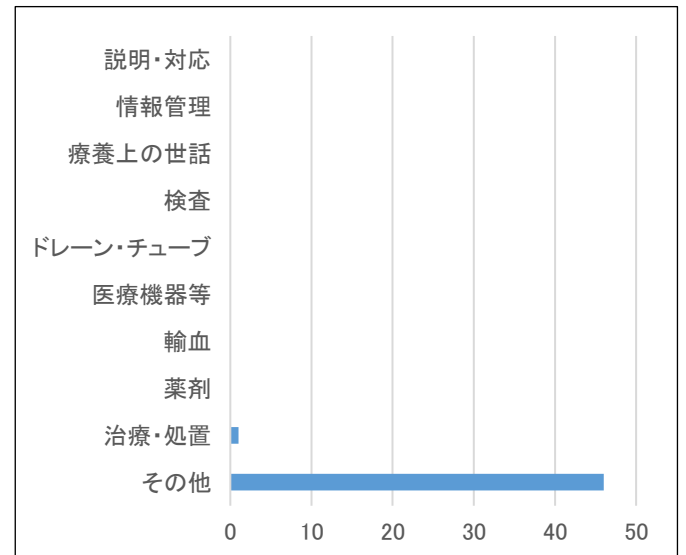
(4) 「事故レベル3a」報告内容割合 79 件



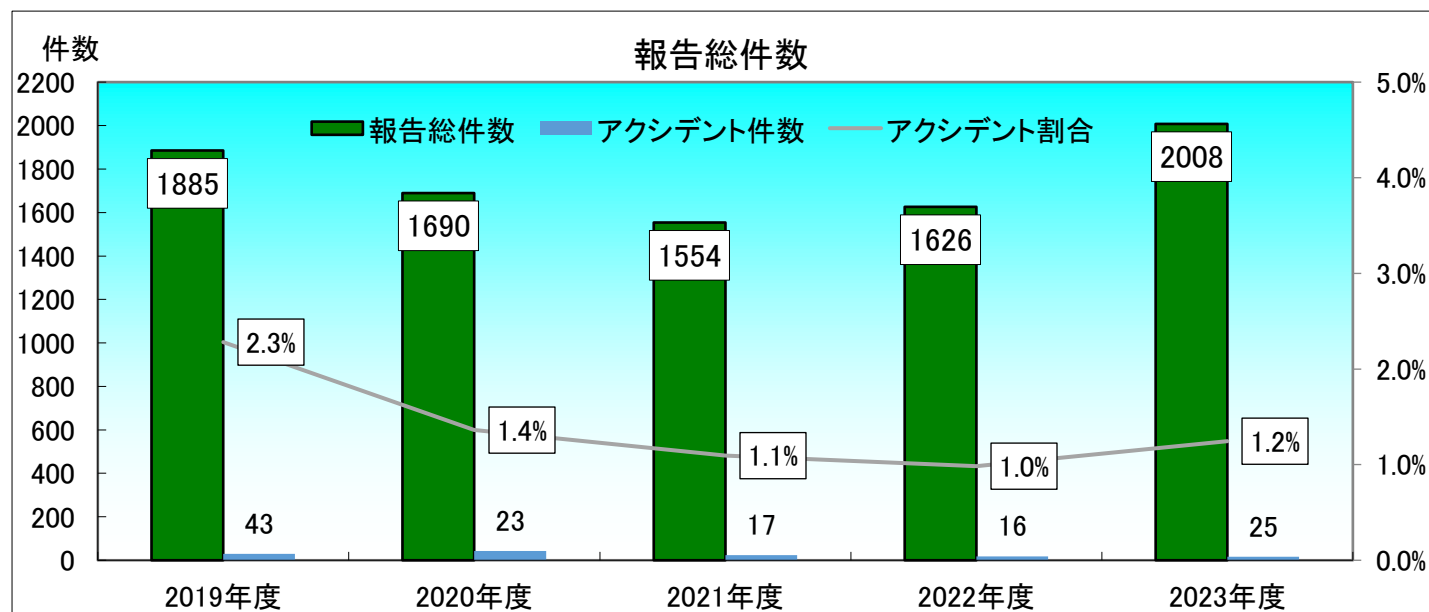
(5) 「事故レベル3b」報告内容割合 23 件



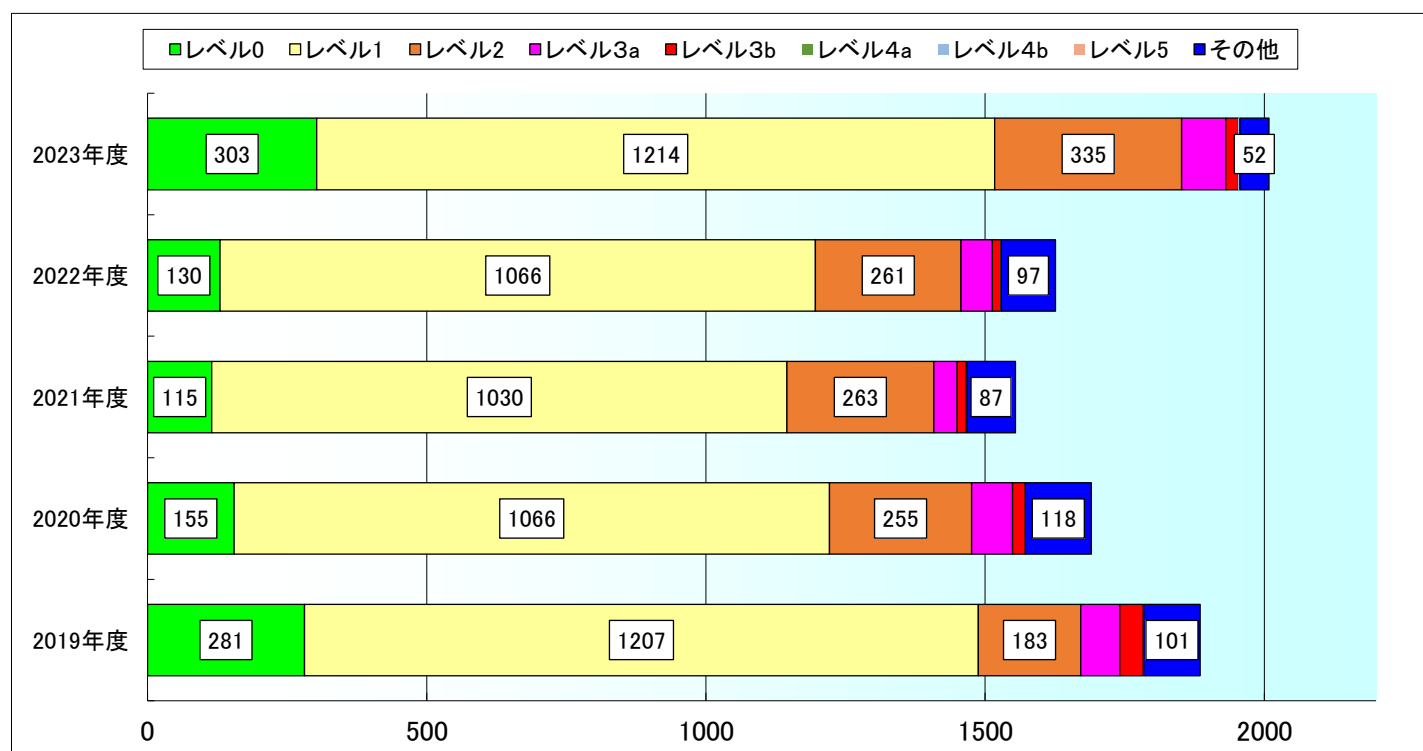
(6) 「その他」報告内容割合 47 件



5. 過去 5 年間に於ける事故レベル 3b 以上報告割合年度推移



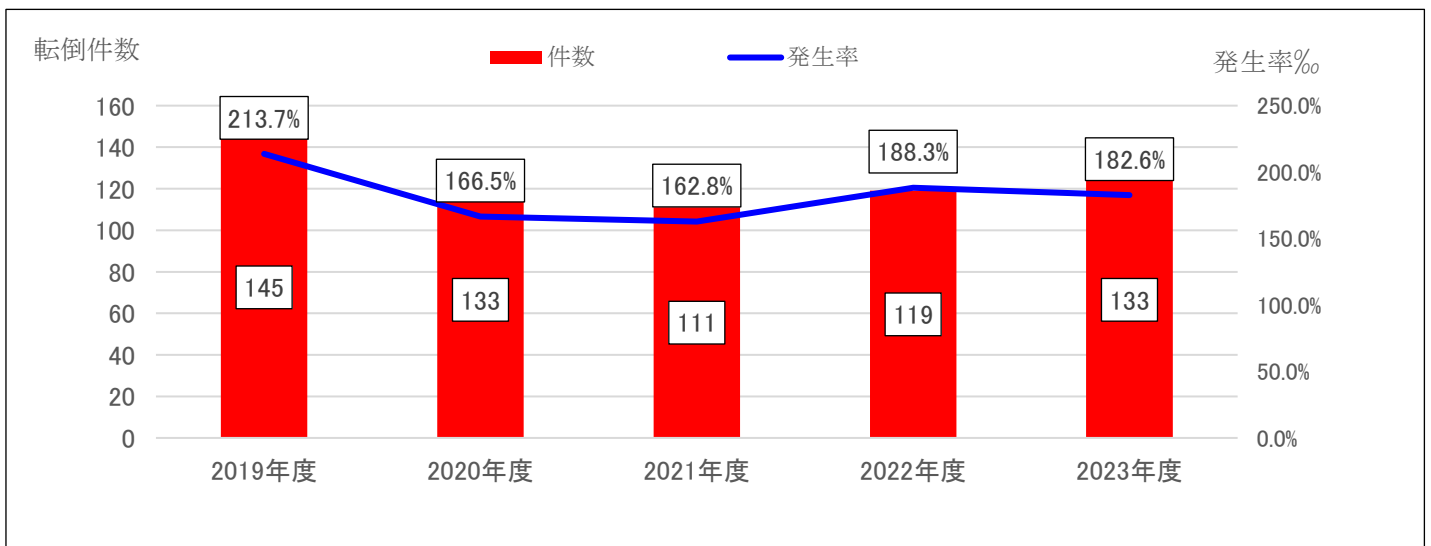
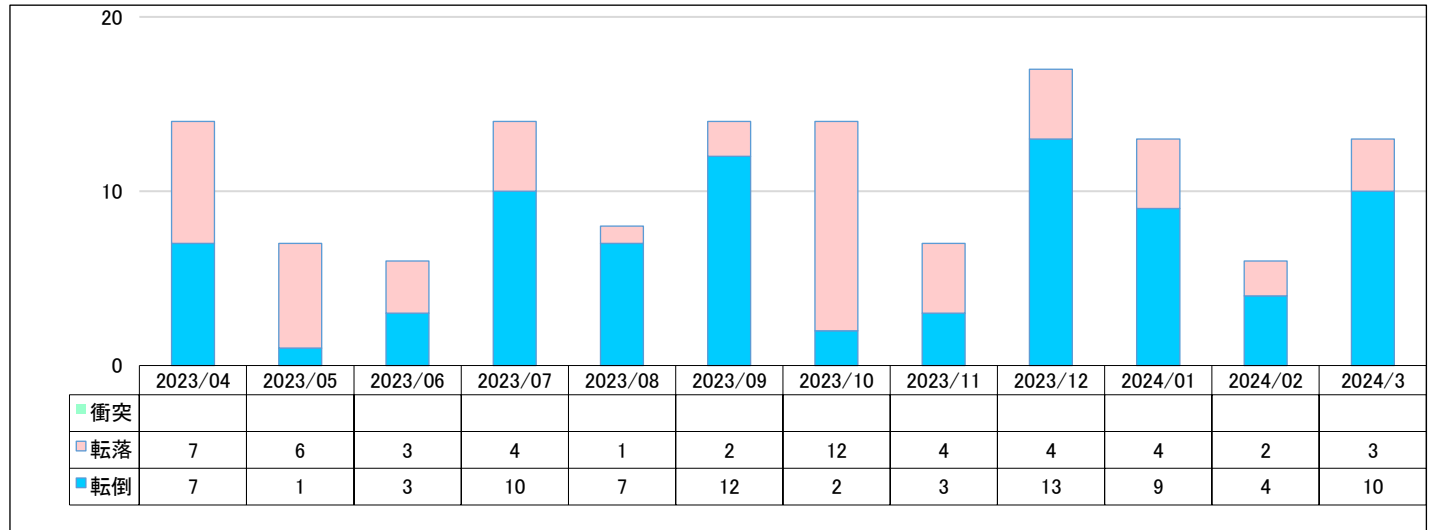
6. 過去 5 年間に於ける事故レベル別報告割合 年度別推移



2023 年度 転倒・転落集計報告(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

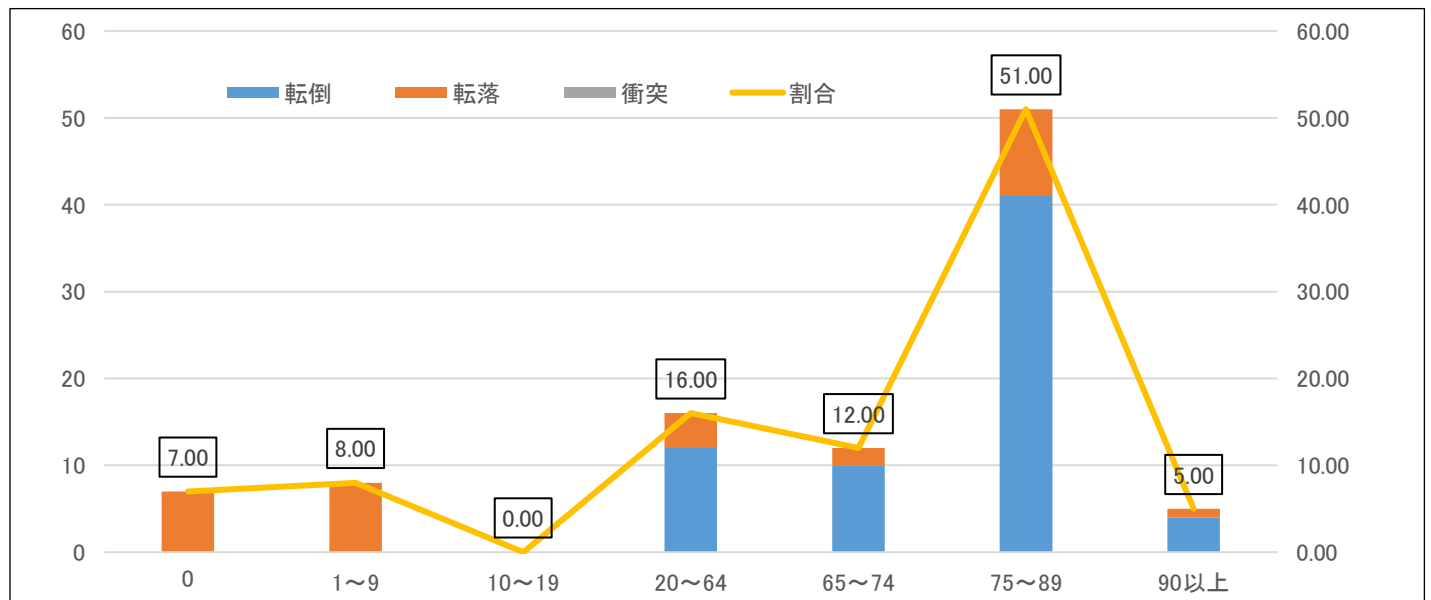
報告件数:133 件 転倒:81 件 転落:52 件 衝突:0 件

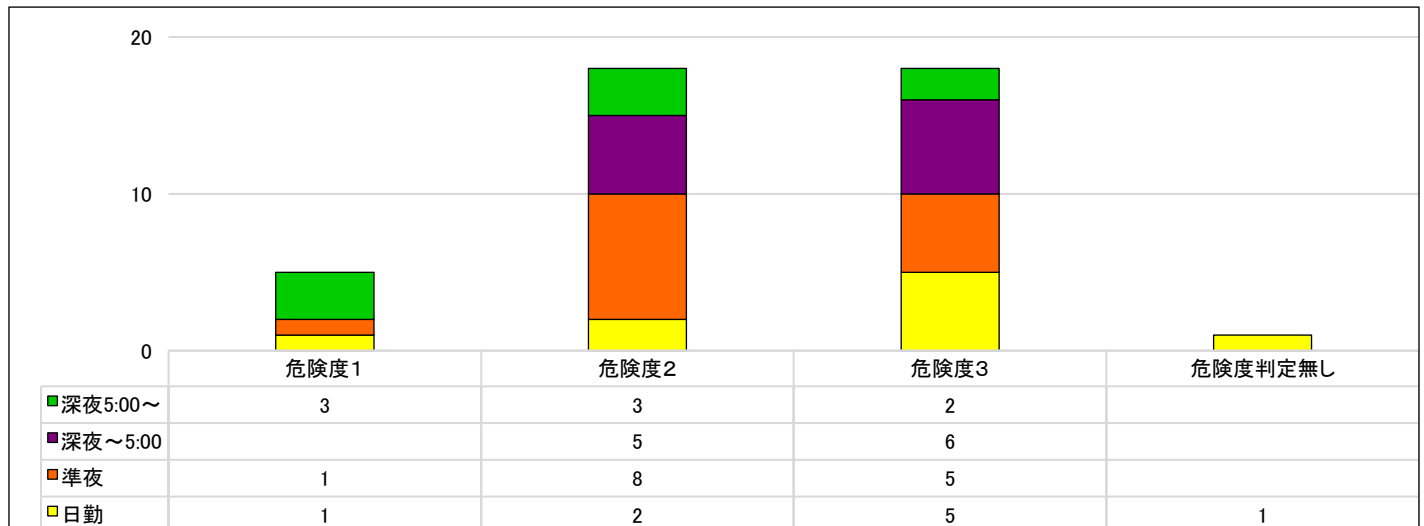
1. 月別・年度別



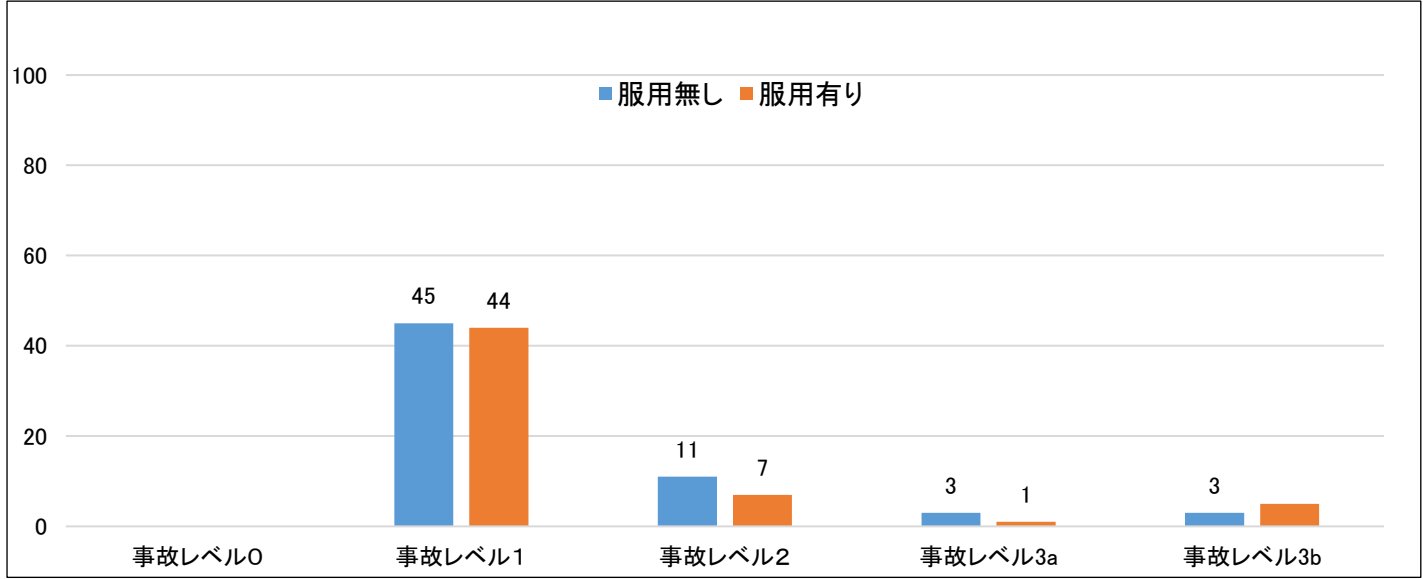
2. 年齢別報告数と発生率

発生率(%) = 転倒・転落入院患者数 / 入院延べ患者数 × 1000

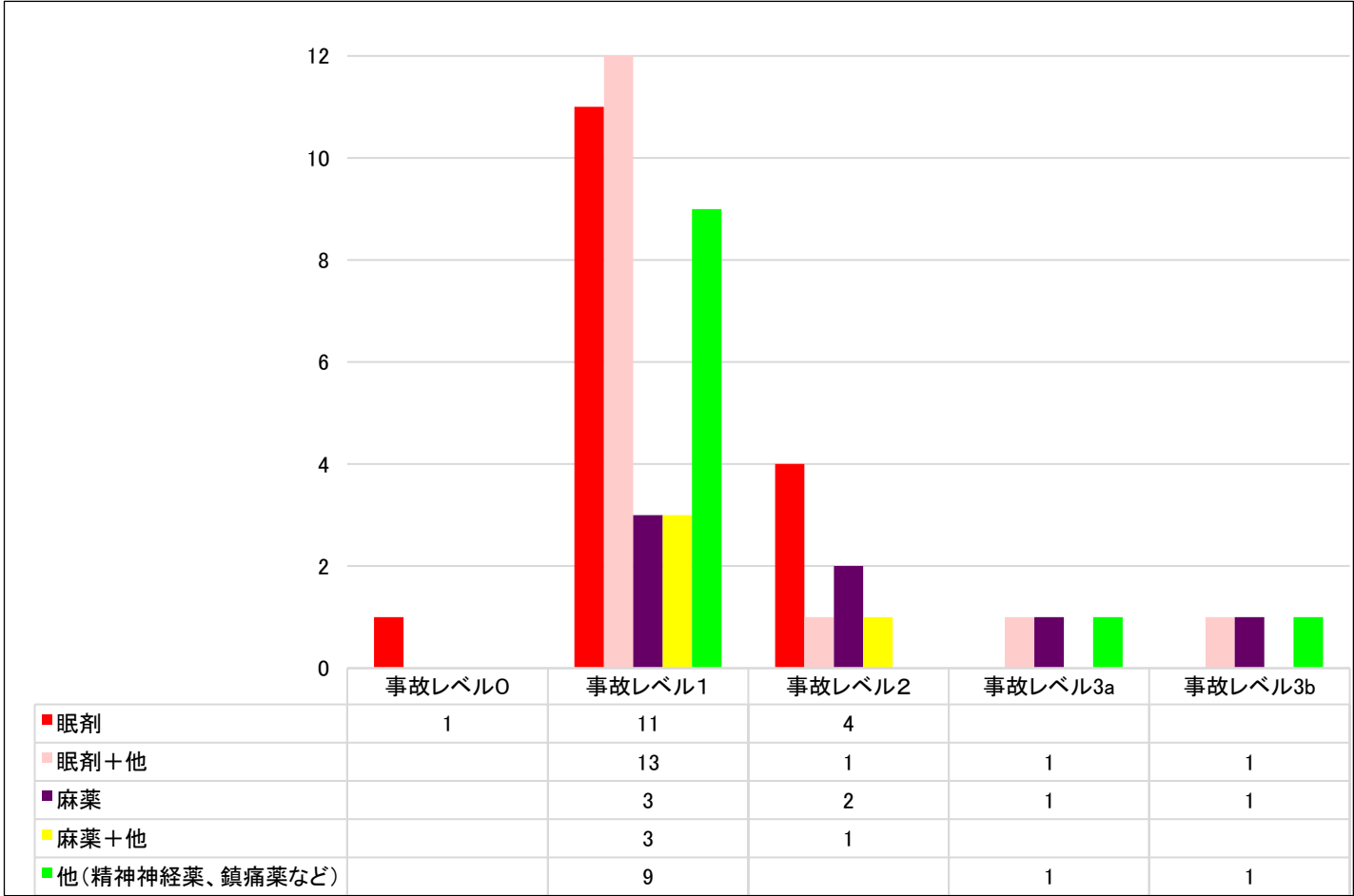




6. 薬剤服用別



7. 薬剤別



- 2023 度のレベル 3b 以上の転倒・転落患者は 5 件(昨年度 7 件)だった。
いずれの事例においても医師から患者の家族に事故の経緯について説明され、治療方針を含めた理解・協力が得られていた。
- 年齢別発生率では、75 歳以上の高齢者の割合が 51%(昨年度 73%)
高齢者の転倒は、看護師の付添いなしでの排泄行動や更衣時に多い。入院後は、高齢者の環境変化に対応できるようアセスメントの強化が必要。また、転倒しても骨折等を発症しない工夫が課題となる。
- 0歳は転落のみで、付き添いの家族に対してベッド柵を上げておくことの重要性を周知する必要がある。
- 危険度別発生時間では、排泄行動も含め時間帯に関係なく発生していた。また全体では危険度 3 の患者割合が多く排泄行動に関しても同様の結果となった。

	危険度 1		危険度 2		危険度 3	
	総合計	排泄行動	総合計	排泄行動	総合計	排泄行動
2022 年度	10.1%	2.5%	31.9%	45.0%	53.8%	52.5%
2023 年度	17.8%	11.9%	31.0%	42.8%	49.6%	42.8%

※危険度＝転倒・転落アセスメントスコアシートを用いて、入院時、患者状態変化時に算定する。

- 薬剤服用別では、昨年度と比較し薬剤服用中の患者数が 57 件で同数だった。
- 服用患者の報告では、眠剤と他の薬剤の併用の割合が全体の6割を占めていた。また、精神神経薬・鎮痛薬を服用していた患者数は、昨年度 20 件に対し今年度は 11 件で-9 件となった。
- 入院患者の高齢化により、せん妄や不穏による精神神経用薬の服用例があり、管理体制に注意が必要と思われる。